

2018.10.1 第1201号
ISSN 0913-0217

発行人/長 瀬 清
編集人/山 科 賢 児
発行所/北海道医師会
〒060-8627
札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2018

10
月号



北海道 美の遺産

小林 一雄

嵐をさけて (釧路河口)

釧路市立美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成30年10月1日 第1201号

第1200号記念特集 記念寄稿記事	磯部 宏、太田 智之、奥芝 俊一、狩野 吉康 木佐 健悟、田村 裕昭、土橋 和文、平野 聡 藤澤 真、古田 康、中田 智明、吉岡 成人 吉田 茂夫、宮城島拓人	3
医の倫理綱領		23
指標／産業保健活動	生駒 一憲	24
専門部から／北海道における節電について	伊藤 利道	26
速報／平成30年度北海道胆振東部地震について	目黒 順一	27
報告／平成30年度北海道医師会賞・北海道知事賞受賞者業績紹介		28
新都市医師会長の紹介		34
郡市医師会長の抱負		38
報告／医学生・若手医師キャリア支援検討会	藤井 美穂	44
郡市医師会だより／平成29年度北見医師会主催・共催 活動報告	今野 敦、古屋 聖児 大内 博文、木村 輝雄	46
税務相談室／源泉徴収のための備付帳簿等について	中村 孝一	48
医師のための法律相談コーナー／基礎から確認ワークルール(8)		
－配転・出向の基礎知識－	矢吹 徹雄、高橋 和征	50
投稿／救急安心センターさっぽろ「#7119」の現状	浅井 康文、今 真人	52
会員のひろば	小林 孝、林 卓宏、柳谷 真悟、日高 康弘、一色 学、田口 浩之 柳瀬 義男、浜島 泉、柳川 利正、土肥 修司、松浦 信夫	54
ポラリスを仰ぐ北の大地から	林 憲雄、小山内裕昭	64
大通公園を望む窓辺から	藤井 美穂、稲葉 秀一	65
日本医師会生涯教育講座等開催情報		66
中央66 道南67 後志68 日胆68 空知69 道北70 北見71 道東71 その他(学会・医会・研究会等) 72		
日医認定産業医制度研修会開催一覧		74
日医認定健康スポーツ医制度再研修会開催一覧		77
その他開催情報		78
新規指定医療機関		78
訃報		79
売貸医院・医師招聘情報		80
会議室／第11・12回常任理事会、第3回理事会		84
道医の動き		88
道医師国保の頁		90
コーヒブレイクMedico's Column		96
季節風／複合災害に備えよ		
－平成30年北海道胆振東部地震が物語るもの－	橋本 洋一	98
お知らせ		
平成30年度北海道がん検診従事者講習会[マンモグラフィ読影講習会]の開催および受講事前調査のご案内43／第45回全道医家囲碁大会開催のご案内43／「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼49／日本医師会作成『心肺蘇生法C A B + Dカード』63／北海道医報年間購読のご案内63／電子メールによる会員への情報提供について－メールアドレスの登録－73／医師招聘に掲載をご検討中の医療機関の皆様へ83／「医師資格証」を持ちましょう89／北海道医師会は、北海道に在在するすべての医師が利用できる女性医師等支援事業を推進しています。89／グループ保険のご案内97		
北海道医師会会員数 8,362名 (+25) うち日本医師会会員数 5,865名 (+29)		
A 2,443名 (-4) B2 4,673名 (+26) C2 127名 (-1)		
B1 620名 (+2) C1 100名 (±0) C3 399名 (+2)		
平成30年8月31日現在 () 内前月比		

作品紹介

こばやし かずお

小林 一雄 嵐をさけて(釧路河口)

1914(大正3)年～2009(平成21)年

釧路市生まれ。

1988(昭和63)年の作品。油彩・キャンバス(130.3×162.1cm)。

釧路の太平洋炭鉱に勤務しながら、炭鉱や釧路の風景など精力的に制作を続け、釧路美術界の草分け的存在である。日展、白日会展などに出品。1969年太平洋炭鉱を退職し、画業に専念するようになる。同年渡仏。ヨーロッパの町並みを描き、ル・サロン展(フランス)で受賞。釧路を拠点に置きながら、たびたびヨーロッパを訪れ、町並みなど風景画を多く描く。

北海道美の遺産

写真・資料提供：釧路市立美術館
(釧路市幣舞町4番28号 釧路市生涯学習センター3階 0154-42-6116)

漁師にとって船は命。台風から漁船が被害を受けないように、漁師はロープを増やしたりするなど、漁船を岸壁にしっかりつなぎ止め嵐に備える。本作品も、画面中央の漁船の幾重にも絡まるほどのロープや、河口から港までひしめき合っただけで停泊している漁船群を力強いタッチで描き、その壮観な景色に思わず圧倒される。また、画面奥にかすんで見える大きな倉庫、色鮮やかに描かれているオレンジの丸ブイや大漁旗からは、地元漁業が活況を呈し、人々の生き生きとした日常の営みが伝わってくる。長年、釧路を描き続けてきた作者の地元愛が感じられる。